

# 自然や景観とともに歴史に想いを馳せ、 文学を体感できる道・ニセコ



小川 浩一郎 (おがわ こういちろう)  
 (株)ジオ (THE-O) 代表取締役



1980年札幌市生まれ。2001年エコ・ネットワーク代表代行、13年北海道科学大学客員准教授。札幌市南区常盤で育つ。『フットパス』をキーワードに市内、道内、国内で普及活動、ウォークイベントを実施し、ワールドウォーカーとして世界の「フットパス」を歩いている。「歩く」ことを通じて自然あふれる都市・札幌を観光客へ伝えるべく奮闘中。著書に「北海道フットパスガイド①」「北海道フットパスガイド②」。

## 抜群のロケーションや自然を楽しめるニセコ町

ニセコ町と言えば、今や日本のみならず世界中から注目されているリゾート地になっています。パウダースノーを楽しめるスキー場やニセコ連峰の登山、清流・尻別川でのカヌーやラフティングなど日本やアジア各国だけではなく欧米、オーストラリアなどから自然を楽しもうと多くの観光客が訪れています。ニセコ町ではこの抜群のロケーションや自然を楽しめます。

一般的には「自然を楽しめるリゾート」として人気を博していますが、ニセコのフットパスは、有島農場などの当時の画期的な農地解放といった歴史的要素も非常に深みがあり、その有島武郎の小説の舞台になるポイントなども多く、これらをつなげた文化的な要素も自然と密接に交じり合っている奥深いルートになっています。また近年では札幌市や黒松内町まで、または羊蹄山麓を周回するロングパス（長距離フットパス）化も目指している、フットパスの先進的な地域でもあります。

## 「歴史」を感じられる3つのフットパス

コースは有島地区を中心とした田園地帯を歩き、その歴史を感じられる「文学・歴史の散歩道」。曾我地区の田園風景の中、ストーンサークルなど先史の歴史にも触れられる「開拓・歴史を想う道」。アンヌプリ山麓の自然を満喫することができる「自然と歴史の道」の3コースが現在設定されています。ニセコ町で自然を感じられることは前述のとおり、多くの人たちが思い描くでしょうから「歴史」も感じられるルートを紹介します。

ニセコ町で最初にできたメインルートと呼べるフットパスは「文学・歴史の散歩道」です。当地の作家・有島武郎の小説に登場するポイントを通りながら羊蹄山やアンヌプリ、尻別川などバラエティに富んだルートです。基本的にはJRニセコ駅を起終点とした全長10.6kmとなっており、八の字型になっているので体力に合わせてルートも短縮できる、老若男女が楽しめ



小説『親子』に登場する「親子の坂」



ます。道の駅もルートに組み込まれているので、車で訪れ、道の駅を起終点に歩くこともできます。

### 1日を存分に満喫できるニセコ

JRニセコ駅から尻別川の流れを感じながら進むとすぐに田園風景が広がります。そして森の中の坂道に行き当たりますが、ここは小説『親子』に登場する「親子の坂」です。小説のとおり、少し険しい坂道を登らなければなりません、登りきった先に広がる田畑と羊蹄山の景観は思わず足を止めたくなる眺めです。周りの建造物以外、有島が眺めた当時の風景そのままではないでしょうか。さらに進むと大きな建物に行き着きます。有島記念館です。有島の生涯と農場のあゆみなど貴重な資料が展示されていますし、カフェスペースもあるので休憩するにはちょうどいいポイントでしょう。有島記念館が八の字のルートの交わる地点です。ロングコースへ進むと春には木道からミズバショウやエゾノリュウキンカ、サクラなどを第2カシュンベツ川という小さな川のせせらぎを感じながら楽しめます。道中には有島が解放を宣言した<sup>いやす</sup>弥照神社もあります。交差点の有島記念館から進み、道道を越えると再度、第2カシュンベツ川沿いに出ます。フットパスらしい未舗装の道が川沿いに続きます。サイロの広場から道道に出ればあと少しでゴールです。ここから道の駅は数分の距離なので立ち寄れますし、車で来たウォーカーもここから歩き始めると良いでしょう。JRニセコ駅までの最後は殖民軌道跡を進み、軌道の名残を思わせる倉庫群を進めば終点のニセコ駅に戻ります。

ここではまだまだ書ききれないほどの見どころや景観、歴史を楽しめるのがニセコフットパスの魅力です。その上、リゾート地ということだけあってルート上にはいくつものおしゃれで<sup>おい</sup>美味しいカフェやパン屋、道の駅などが点在しています。事前に調べてお好みのカフェ等のお店に立ち寄り、1日歩きながら存分にニセコを満喫するのももうひとつの楽しみ方です。



「親子の坂」を登りきると田畑と羊蹄山が眼前に

### 「ニセコア라운드60マイルズ」

前述のとおり、ここ数年さらに隣接または地域内の市町村とフットパスをつなげる活動も行っております。9月21、22日と10月13、14日の2回に分けて「ニセコア라운드60マイルズ」と銘打ったニセコ町から蘭越、寿都を通り黒松内町までの約96kmのロングパスウォークイベントも実施します。1日の歩行距離が20km弱と長くなりますが、登山やロングトレイルウォークとはまた違った平地のフットパス歩きを楽しめるはずです。6年前にはエコ・ネットワークが主体となり、札幌から喜茂別、真狩を通りニセコまでのロングパスウォークイベントを実施しましたので、それが物理的につながることになります。しっかりと地元フットパス団体も絡み、コースサインやマップも今後充実していくことになるでしょう。

札幌からニセコを通り、黒松内まで歩けば果てしの無いルートに思えますが、2週間ほどじっくりと地域を歩くことで体感できるものもあります。より深く地域を見ることができ、誰も知らなかった自分だけの自然や景色、食、人に出合えます。観光としても従来型ではない別の楽しみも体感でき、長期滞在にもつながる可能性を秘めています。まさにウォークツーリズムの先進ケースとして日本や世界に誇れるものになると信じています。

それぞれのルートが分かりやすいマップとなっていますし、コースサインもしっかりと完備されているので、誰でも簡単に歩くことができます。観光地として知られているニセコ町の多様性に富んだ魅力が存分に詰まったニセコフットパスを歩いてみてはいかがでしょうか？きっと今までとは違った「ニセコ町」に出合えるはずです。

ニセコ町ではニセコフットパス協会(090-8903-5705(工藤))が主体となり、ルート選定や維持・管理など、マップの配布も行っており、ホームページも公開しています。  
(<http://www17.plala.or.jp/nisekopath/index.html>)



有島記念館